



PISA

IN FOCUS

33

education policy education policy education policy education policy education policy education policy education policy

教育システムの質について、移民の生徒たちから何が分かるか。

- 出身国が共通で、したがって文化的に類似点の多い移民の生徒たちは、学校システムによって成績が大きく異なる。
- 社会経済的地位が類似した移民の生徒たちと移民でない生徒たちとの間の成績の差は、移民人口が多く、移民の生徒たちが社会経済的地位において他の生徒たちと同じように多様な学校システムで小さくなる。

移民は、人々が別の場所でのより良い暮らしの追求に駆り立てられるようになって以来、言い換えれば、人類の歴史の始まりから、行われている。移民の流入は、多くの場合、経済的又は政治的状況の結果であり、その影響を受けやすいが、こうした移動に共通しているのは、新しい国へ、少なくとも一時的に、うまく溶け込みたいという移民の希望であり、また必要性である。教育システムは、労働市場に参入するために必要なスキルを獲得する機会を移民とその子供たちに提供し、融合のプロセスにおいて重要な役割を果たす。

流入する移民の増加に伴って…

PISA2009年調査では、多様な生徒集団のニーズに対処することにおいて、教育システムがどの程度成功しているかを見極めようとした。2000年から2009年までの間に、OECD加盟国全体で、移民の背景をもつ15歳の子供の割合は8%から10%に増加した。13の国々で移民の背景をもつ生徒の割合が2ポイント以上増加し、その結果、現在こうした生徒たちが生徒数の5%以上を占めている。アイルランド、リヒテンシュタイン、ニュージーランド、ロシア、スペイン及びアメリカでは、移民の生徒の割合が5ポイント以上増加し、今ではこうした生徒たちがこれらの国々の生徒数の8%~30%を構成している。カナダ、ギリシャ及びイタリアでは、移民の生徒の割合が同期間中に3ポイント~5ポイント増加した。



PISA

IN FOCUS

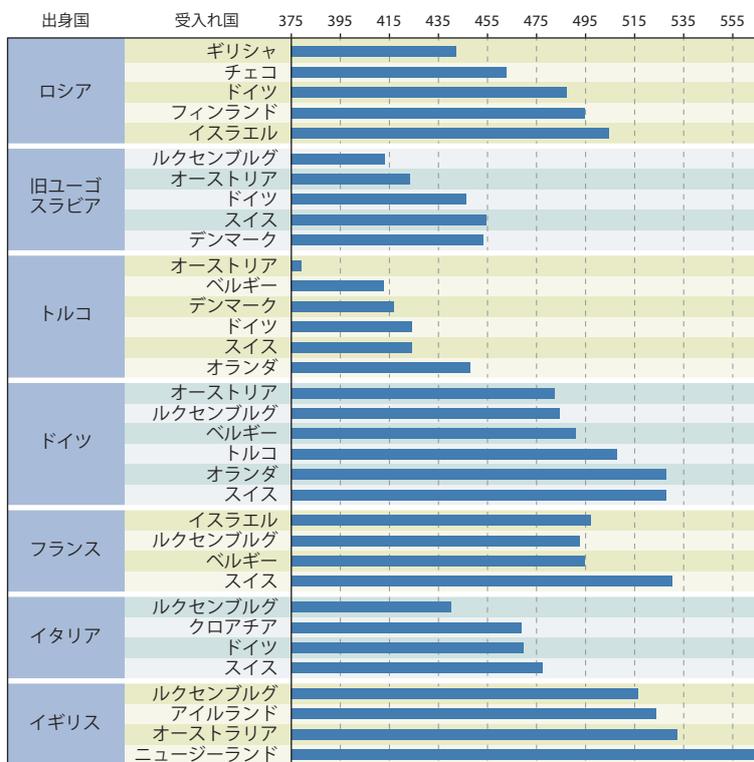
…背景、そして教育の成果における多様性が増大する。

一部のPISA参加国で収集された移民の生徒たちの出身国とその両親の出身国に関する情報により、こうした生徒たちの成績とその特別なニーズを受入れ国がどの程度満たしているかについて、洞察を深めることが可能になる。こうした国々での結果から、同じ国出身で社会経済的地位が似ている移民の生徒たちの成績が、教育システムによって大きく異なることが分かる。例えば、ロシア出身でフィンランド、ドイツ及びイスラエルに住んでいる移民の生徒たちは、読解力におい

てほぼOECD平均の成績を収めているのに対し、チェコに住むロシアの生徒たちの得点はOECD平均より約30点(学校教育1年分に相当する)低く、ギリシャでは平均より50点以上低い得点である。同様に、旧ユーゴスラビア出身でデンマークに住む移民の生徒たちの得点はOECD平均を約40点下回り、一方、ルクセンブルグでは80点以上低い得点である。トルコ出身でオランダに住む移民の生徒たちの得点はOECD平均より45点低く、ベルギー、デンマーク、ドイツ及びスイスでは平均を70~80点下回り、オーストリアに住むトルコ人生徒の得点はOECD平均を115点下回っている。

受入れ国が異なると、成果が異なる

出身国ごとのPISA読解力の平均点



注: 移民グループの平均成績は、社会経済的地位の差を調整したものである。これは、同じ出身国で異なる受入れ国に移住した生徒達が、出身国における平均的な生徒としての同じ社会経済的地位を共有していた場合に推測される読解力成績に相当する。

出典: OECD 2009 PISA Dataset, PISA 2009 Results: Overcoming Social Background: Equity in Learning Opportunities and Outcomes, Volume II, OECD Publishing, Table II.4.5.

StatLink <http://dx.doi.org/10.1787/888932343285>

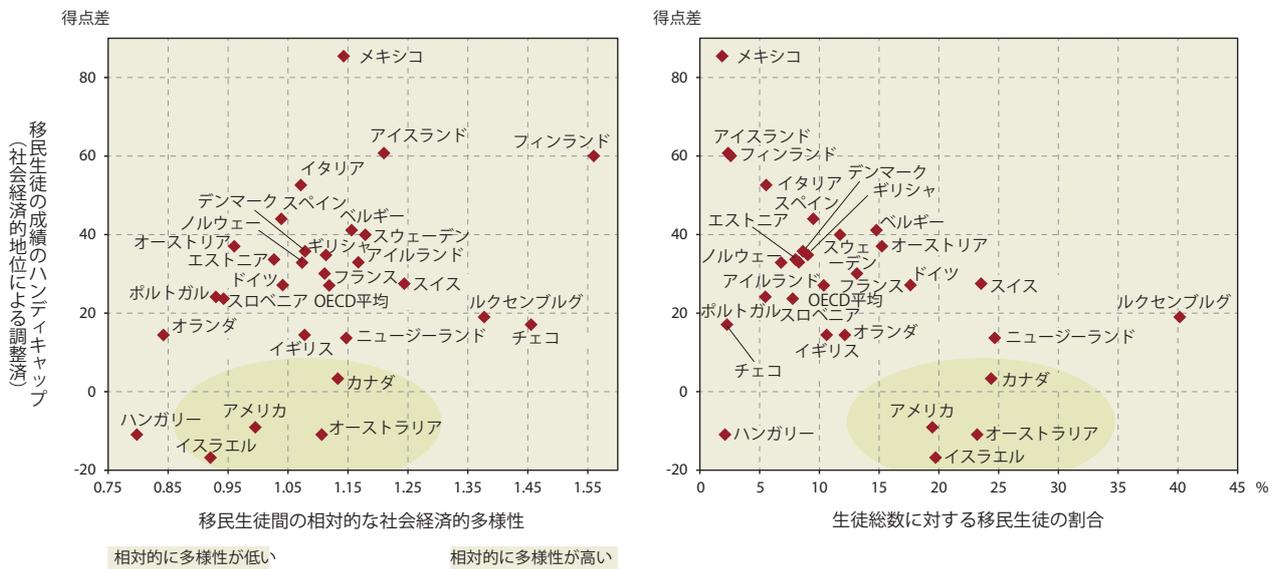


OECD加盟国出身で他の国へ移住した生徒たちに、同じパターンが見られる。例えば、平均して、オーストリアとルクセンブルグに住むドイツ人生徒の成績はOECD平均より少なくとも10点低く、これに対し、オランダとスイスでは平均を30点以上上回る。ベルギー、イスラエル及びルクセンブルグの学校に通うフランス人生徒の成績は、平均でほぼOECD平均である一方、スイスでは平均を35点上回る。クロアチア、ドイツ及びスイスのイタリア人生徒の成績は、OECD平均を20～26点下回り、一方、ルクセンブルグでは55点近く平均を下回る。イギリス出身でニュージーランドに住む生徒たちの得点はOECD平均を64点上回る一方、オーストラリアにおける得点は平

均を31点上回る。アイルランドでは24点、ルクセンブルグでは17点と、OECD平均に近い成績である。

よく似た社会経済的地位で、出身国が同じ生徒たちの間で成績に大きな違いがあることは、受入れ国の学校及び教育政策がこうした生徒たちの成績に影響することを示唆している。移民政策、移民たちの出身国と受入れ国との文化の類似点、及びその他の社会政策も、成績における違いの一部については要因となるが、一部の教育システムは、他のシステムよりも移民融合を促進することができるように思われる。

移民生徒の割合の多さは不利益には直結しない



注:「相対的な社会経済的多様性」は、移民の背景をもたない生徒に対する移民生徒のPISA経済社会文化的地位指数の標準偏差比として計算されたもの。
 出典: OECD (2012), *Untapped Skills: Realising the Potential of Immigrant Students*, OECD Publishing, Tables 1.3 and 2.1a.



各学校の方針が移民の生徒たちと移民でない生徒たちとの成績差を縮小できる。

移民の生徒たちを学校システムへ溶け込ませることに資する方針を策定する際に移民の出身国を考慮することは重要であるが、恐らく、それは溶け込みに影響し得る最も重要な要因ではない。社会経済的地位も、移民集団の中で広く多様である。一般に、学校システムの中には、社会経済的多様性の対応において他のシステムよりも成功しているところがある。移民の生徒たちの成績は、移民の生徒たちの数が比較的多く、移民の生徒たちの社会経済的地位が他の生徒たちと同じように多様な学校システムの方が、良い傾向がある。例えば、オーストラリア、カナダ、イスラエル及びアメリカでは、生徒の4分の1から5分の1に移民の背景がある。上記4か国では、同じような社会経済的地位の生徒たちは、移民であるか否かに関係な

く、みな同じくらい成績が良い。これに対し、移民の生徒たちが生徒総数に占める割合が小さい国々で、この集団が生徒全体よりも社会経済的に多様である場合、移民の生徒たちと移民でない生徒たちとの成績の違いは、社会経済的地位を考慮した上でも、比較的大きい。

移民の生徒たちは、多様性の課題にうまく対処し、長所やニーズの異なる生徒たちに合わせられる柔軟な学校システムのある国や地域で良い成績を収める傾向がある。増えつつある多様な背景の移民の生徒たちの受入れを始めたばかりの国々は、以前よりこの課題に直面し、こうした生徒たちを学校システムへうまく溶け込ませてきたこれらのシステムの経験を教訓とすることができる。

結論：出身国、文化的背景及び社会経済的地位の同じ移民の生徒たちの成績が受入れ国によって大きく異なるという事実は、教育及び社会政策がこうした生徒たちの読解力の成績だけでなく、受入れ国で利用できる機会を最大限に活かす準備がどの程度整っているかにも影響し得ることを示している。

本稿に関するお問合せ先

担当： Pablo Zoido (Pablo.Zoido@oecd.org)

出典： [OECD \(2010\), PISA 2009 Results: Overcoming Social Background: Equity in Learning Opportunities and Outcomes, Volume II, OECD Publishing;](#)

[OECD \(2012\), Untapped Skills: Realising the Potential of Immigrant Students, OECD Publishing.](#)

参考サイト

www.pisa.oecd.org

www.oecd.org/pisa/infocus

次回テーマ：

「教育における世界的な成績優秀者又は成功した改革者とはだれか」

本稿の翻訳は、日本のPISAナショナルセンターが担当しました。